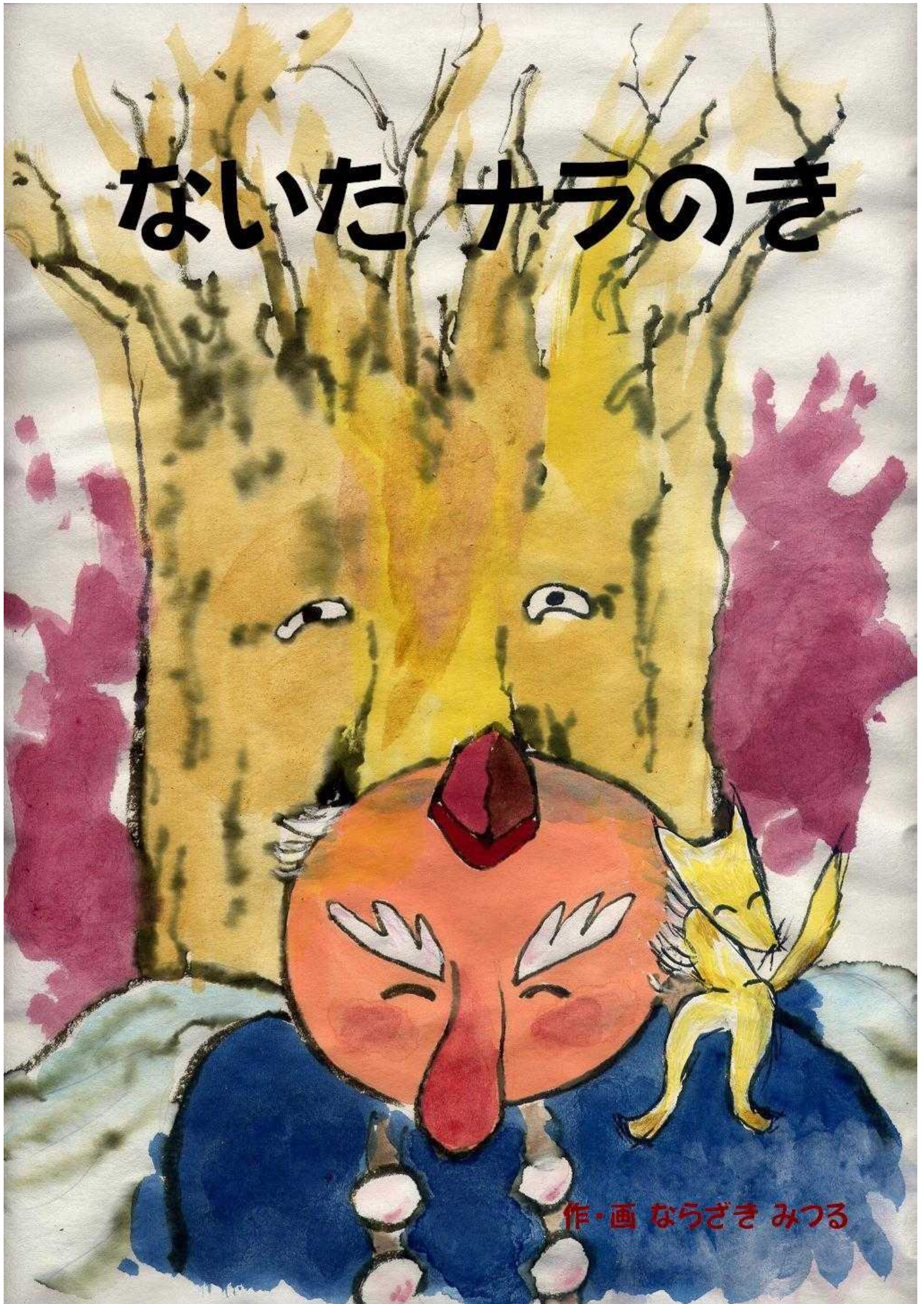


ないた ナラのき

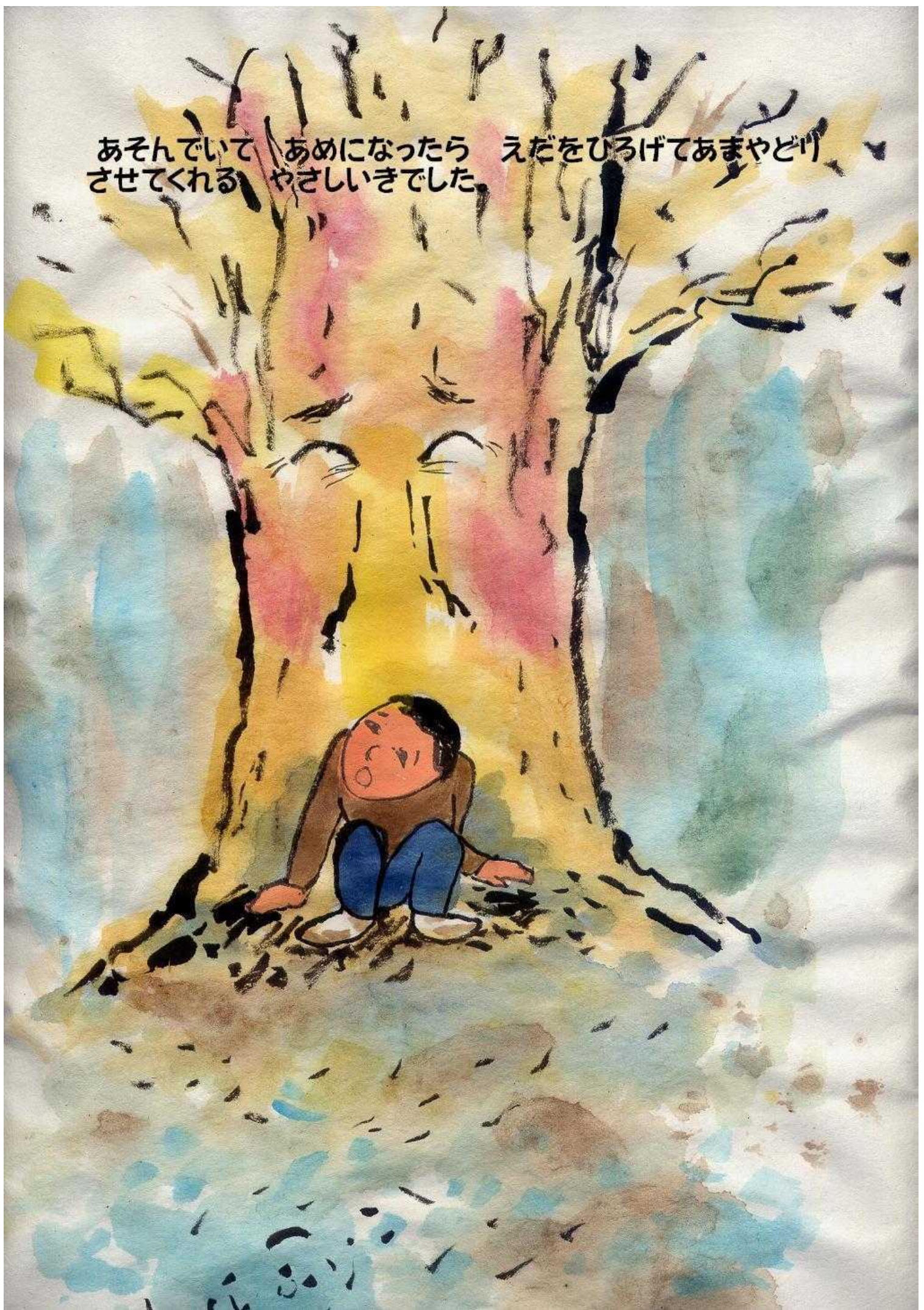


作・画 ならぎみつる

やまのむらのこうえんに ふるいならのきがはえていま
した。
ふといふとい としよりのきでした。



あそんでいて あめになったら えだをひろげてあまやどり
させてくれる やさしいきでした。



なつになると セミやカブトムシだって とれます。
むらのこどもたちは ナラのきが だいすき。
でも さいきんナラのきは おこってばかりです。



“ゆうたりにして”がくちぐせのテングが しんぱいして やまか
らおりにてきました。

「あんた なんびやくねんも そこにたってるんだってな。す
ごいじゃないか」

「うるさい。すごいもんか。ほうっといてくれ」

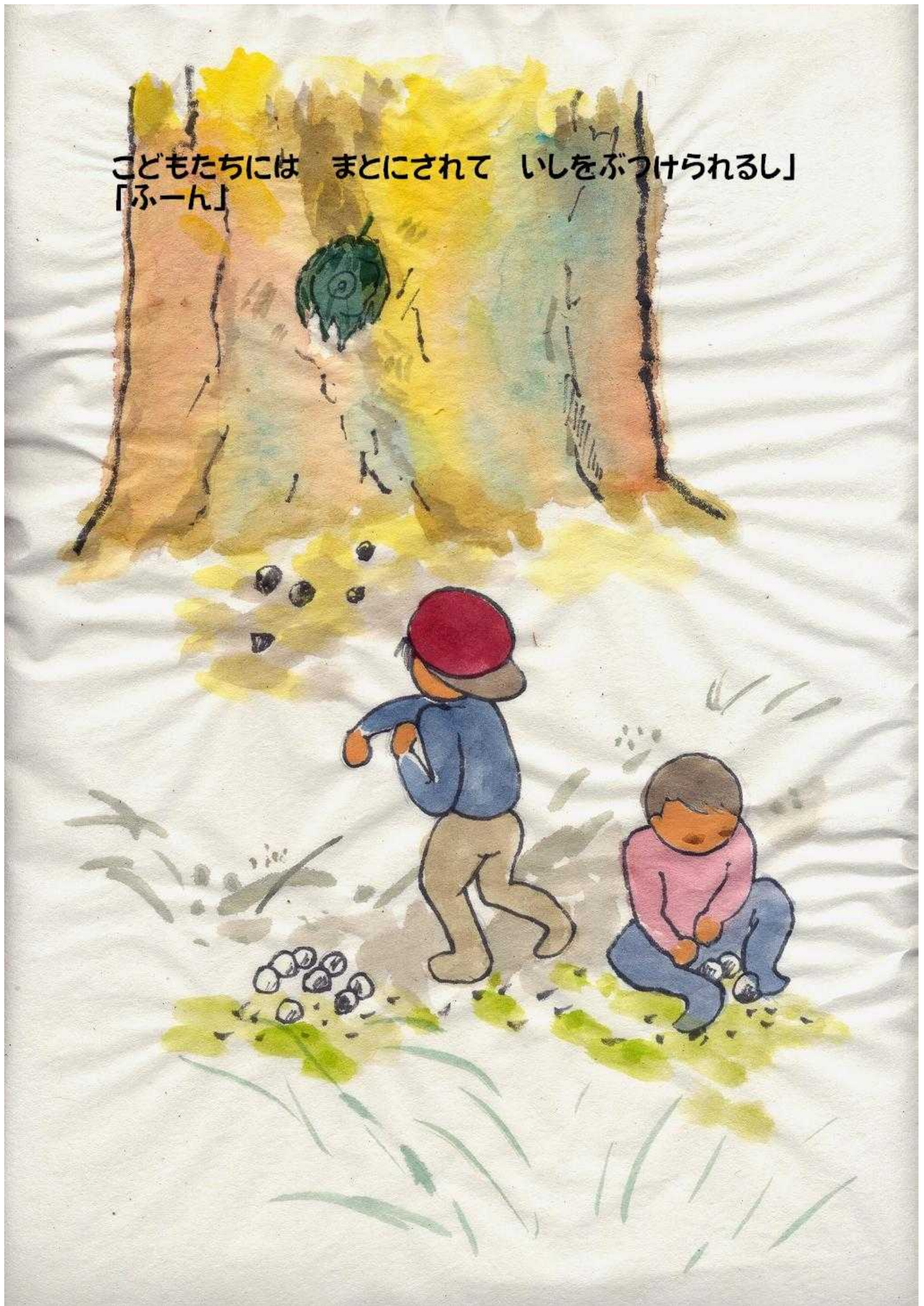
ナラは そっぽをむきました。



「そう おこるなよ。こどもじゃあるまいし どうしてそんなにふきげんなんだい？」
テングが なんどもたずねるから ナラはしかたなく、



子どもたちには まとにされて いしをぶつけられるし」
「ふーん」





「よるになると だれもいなくなるし」
「それは しかたないよ」



たびのわかものがくると あるけないじぶんが みじめにお
もえて しかたがないし」
「ナラのきが あるいたら せかいがひっくりかえるよ」



「おはなみになると わしのまわりはクル
マがいっぱい。まわりは はいきガスだらけ
になるし」
「それは さいなんだなあ」



「キツネだって たまにはそらをとぶのに わしはここから
みうごきできない」
「かわいがっている キツネのコンスケだよ。みせつけるつも
りはなかったんだけど わるかったな」



A watercolor illustration of a landscape. In the upper part, there are trees with brown and orange trunks and green foliage. A dog is visible on the right side. The middle part contains Japanese text. The lower part shows a fire with pink petals falling around it.

「イヌには おしっこをかけられるし」

「きもちわかるが」

でもほんとうは こどもたちが いしをなげても
ナラは いつもえがおだったし、おつきさまとも
ほしたちとも ナラはともだちだし、たびのわかも
のとは いっしょになって うたっていたし、イヌが
おしっこをしても おじいさんのナラのきは へい
きでニコニコわらっていたことを テングは しっ
ていました。

ふきげんの ほんとうのりゆうは うちあけてくれ
ないナラのきでした。

テングはしんぱいでしたが しかたありません。
「そうかい あんたがわけをはなしたくないならき
かないよ。じゃまをしたな」

テングは しかたなくこうえんのそらをとんでいると
うえきやさんたちのはなしごえがきこえてきました。



「それにしても あんなりっぱなナラのきをきりたおすな
んて もったいないよなあ」
「まったくだ。きいたはなしだが ちゅうしゃじょうをひろ
げて こうえんをつくりかえたいらしいんだよ」
「でもまあ きれといわれたら きるのがしごと」
「かわいそうだけど しかたがないか」



テングは すぐにナラのきにひきかえしました。
「やあ またきたよ。げんきだったかい・・・ゆうたいして」
「なんだ、やまにかえったのかとおもったのに」
「すぐにかえるぞ」

テングは なにも知らないふりをしていました。
「ところで そのリスさんにはわるいが あんたのドング
リ すこしもらっていいかい？」



それからなににち たったでしょうか。
テングは うえきやさんたちといっしょに こうえんに
もどってきました。

「わしは ついに きられるのか……」

ナラのきは まっさおになりました。

おもわず なみだがあふれ みきをつたいました。



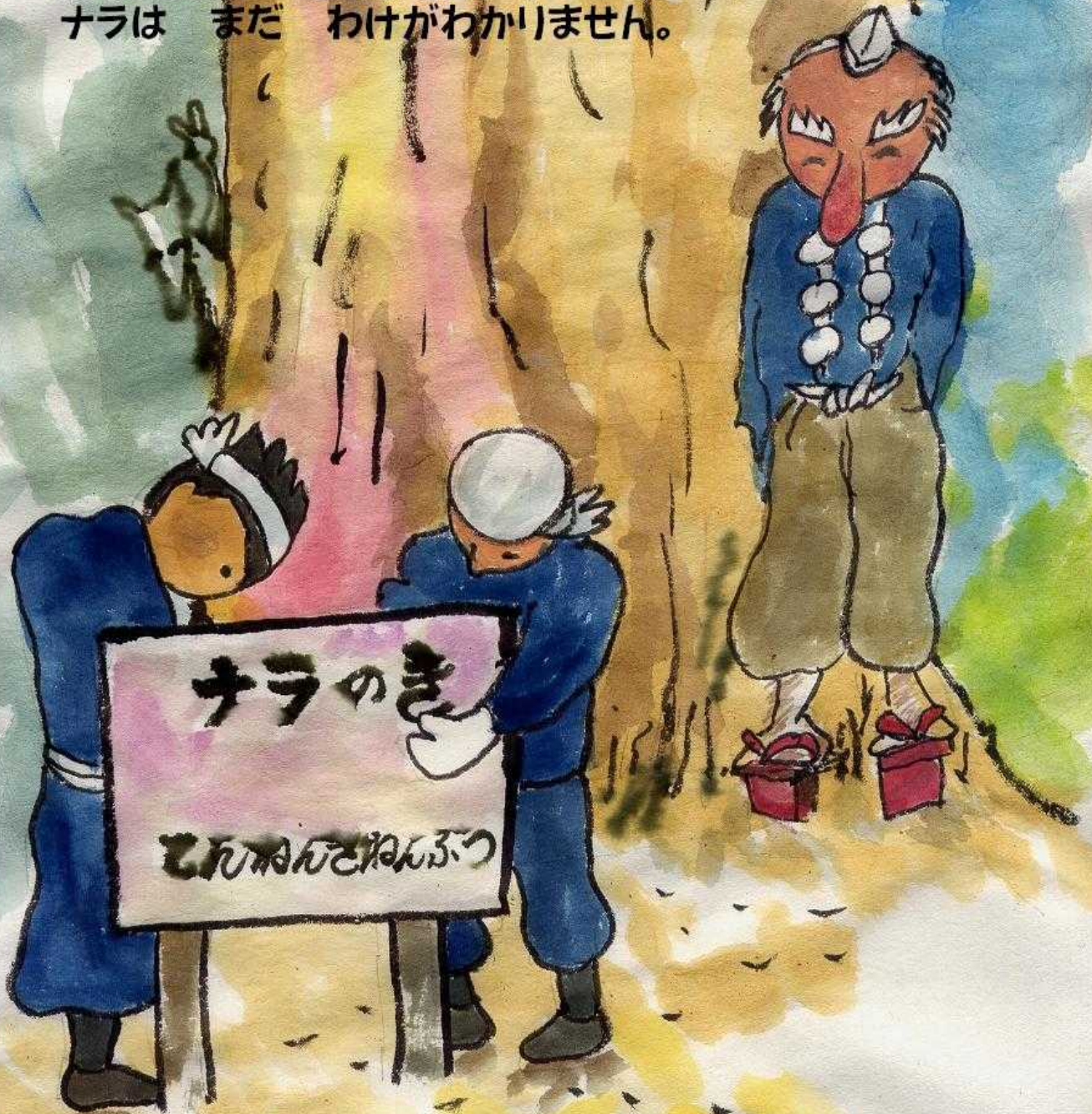
「かくごは できているようだな・・・ゆうたりにして」
テングは ニヤリと わらいました。



「ああ もう おしまいだ」
おじいさんのナラのきは がっくりと くびをた
れました。



「ごめんごめん うそだよ」
テングは しょうげんです。
「もうだいじょうぶ。あんた むらではじめての てんねん
んきねんぶつさまになったんだよ……ゆうたりにして」
きりたおされないどころか いつまでも たいせつにまも
られることが きまったというのです。
ナラは まだ わけがわかりません。



じつは あのあとテングは こどもたちをあつめました。
ナラのきのドングリをふところからだして ひろげ このまま
だと ナラのきがきられてしまうことをはなしました。
こどもたちのむねに ナラのきとあそんだ なつかしいおも
いでが よみがえりました。



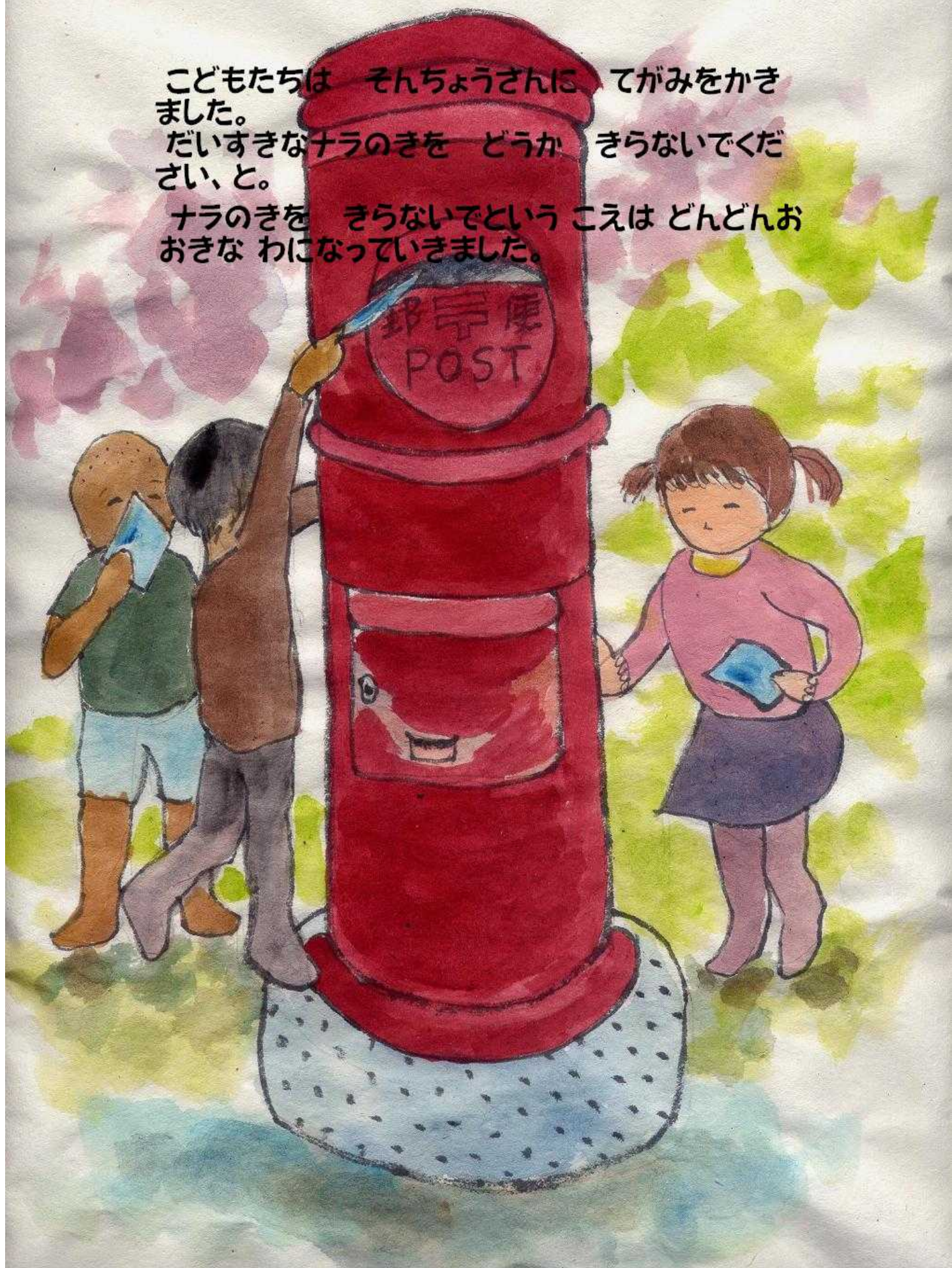
「ヤジロベエや、ドングリのウマやにんぎょうをつくって
みんなであそんだのです。
たいせつな なかま。たからものの ナラのきでした。」

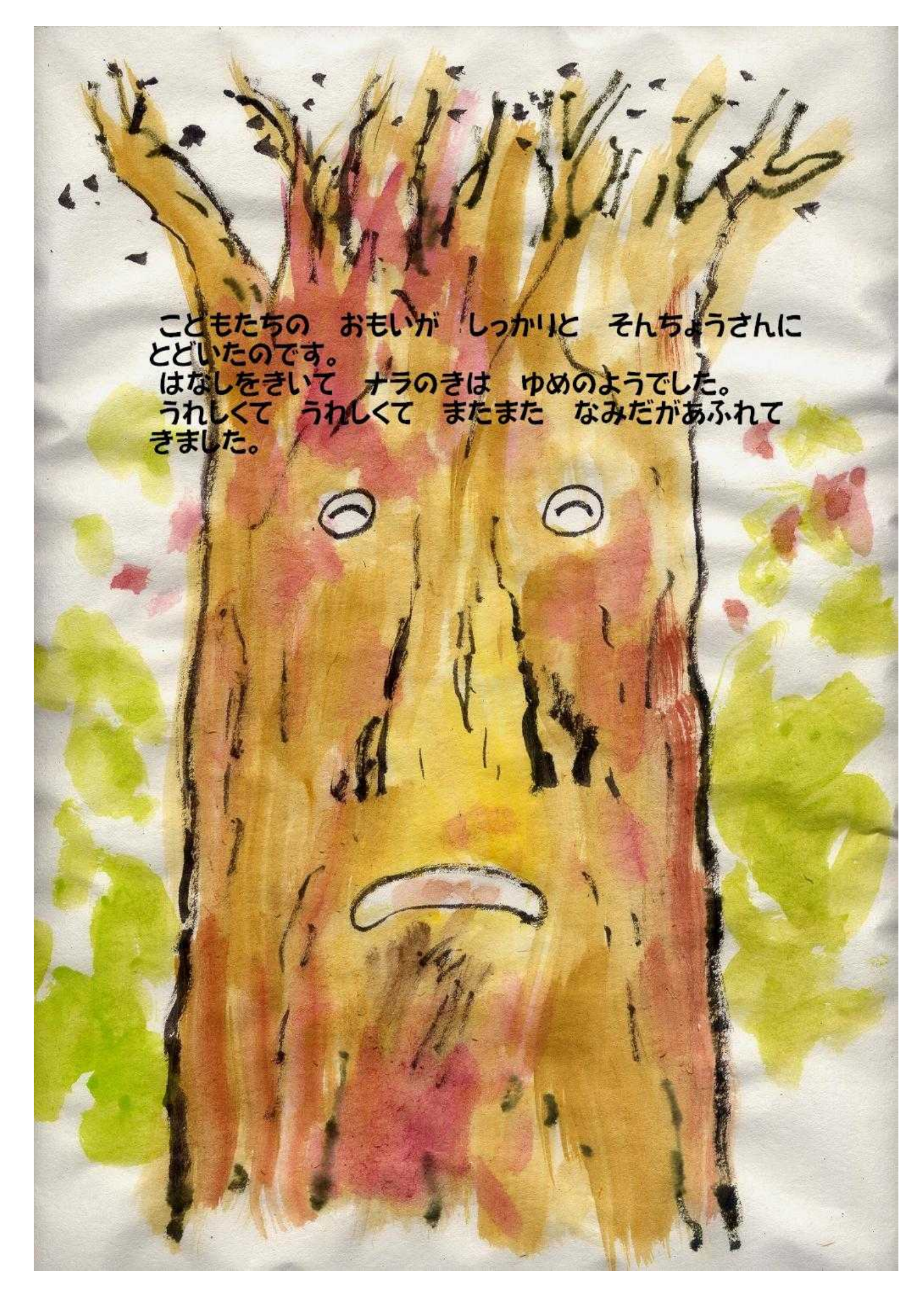


こどもたちは そんちょうさんに てがみをかき
ました。

だいすきなナラのきを どうか きらないでくだ
さい、と。

ナラのきを きらないでという こえは どんどんお
おきな わになっていきました。





こどもたちの おもいが しっかりと そんちょうさんに
とどいたのです。
はなしをきいて オラのきは ゆめのようでした。
うれしくて うれしくて またまた なみだがあふれて
きました。

ナラのきさん よかったね！

ナラのき
てんわんきね

